

整備拡充が遅れている 近江八幡市の放課後児童クラブ

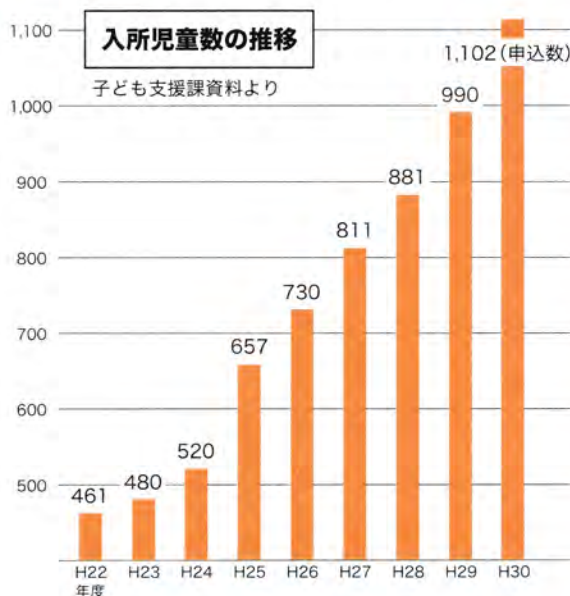


「部屋で子ども同士の肩がぶつかる」!? 安全確保にもかかわる深刻な状況

近江八幡市では、施設定員の120%まで児童を受け入れるよう運営事業者に求めています。H30年度の申込数では、定員を超えるクラブの児童数は、実に過半数となっています(651人、59%)。

児童数が増え、長らく「詰め込み」が続いて「部屋で子ども同士の肩がぶつかる」(安土)など、子どもも職員も疲弊しています。

職員の目が子どもに行き届かず、安全確保にもかかわる深刻な状況です。



パート職員1人分? 国基準を100万円も下回る運営委託料

近江八幡市では独自の基準を設けて、国基準より100万円も少ない運営委託料(右表)となっています。

その差は、全24クラブで試算すると約2000万円です(※3)。市の予算は約340億円ですから、予算の約0.06%で国基準なみにすることができます。

近江八幡市※1	439万9000円
国基準※1	554万4000円
東近江市、竜王町※2	708万5000円

(※1) 児童数40人、年間270日(平日11~19時、夏休み・冬休み・春休み8~19時)開所の場合

(※2) 下記「処遇改善」(非常勤分154万円を補助)含む。東近江市は他に光熱費補助あり。竜王町は光熱費、固定電話代、警備委託料が全額町負担

(※3) ※1と同じ条件で、各クラブの児童数を15、30、40、50、60、70人として試算

近隣自治体を実施する「処遇改善」も未実施です

全国で、放課後児童クラブは人手不足で運営に困難をきたしています。

一方で国は、放課後児童クラブの「質の向上」に力を入れています。職員の資格を制度化し、有資格の支援員が着々と増えています。賃上げに補助する「処遇改善」制度もつくり、東近江市、竜王町などはすでに実施しています。

ところが近江八幡市では、その処遇改善を実施していません。

放課後児童クラブの整備拡充を求めます

いま近江八幡市では、990人の児童が放課後児童クラブに入所しており、子どもたちの安全と保護者の就労を地域で支えています。

しかし入所児童はこの6年で倍増しており、施設と運営の両面で深刻な課題に直面しています。

「子どもたちに安全で豊かな放課後を」

事業内容を紹介しています。次のページもお読みください。



【要望項目】



① 深刻な大規模化・詰め込み…施設が足りません 市の責任で増設して下さい

「子どもが多すぎて会話の声も聞きとれない」（金田）など、安全確保にもかかります。解決は待ったなしです（解説資料参照）。



② 人手不足で運営が困難に… せめて運営委託料を国基準なみにして下さい

市は運営をNPO法人や保護者会等に委託しています。ところが近江八幡市の運営委託料は国基準を大きく下回っています（解説資料参照）。

お名前	ご住所